

害獣を収益にかえる ジビエで地域活性化（2）



キーワード

地方創生、官民連携、食、ブランド化、
鳥獣害対策

フィールド

中国地方
(島根県) ・ **森里**

実施体制

おおち山くじら生産者組合、
おおち山くじら倶楽部、
青空クラフト、美郷町



アクションの目的

イノシシの獣害対策と経済・地域振興の両立。

アクションの背景

1990年頃からイノシシによる農作物被害が深刻化していた。鳥獣被害対策の主体は農家であるという意識のもと、1999年、それまで猟友会に依存していた駆除体制をやめて、2年後、狩猟免許を取得した農家を中心とする駆除班を結成した。

イノシシの資源化に向け、2001～2003年にかけて、近畿中国四国農業研究センターの協力を受けて、イノシシの食肉利用に向けた研究を実施した。2004年に駆除班を「おおち山くじら生産者組合」として立ち上げ、以降、地域の女性により「おおち山くじら倶楽部」、「青空クラフト」が立ち上げられた。

アクションの内容

【駆除イノシシ肉とその加工品、皮革製品】

捕獲したイノシシの肉や皮、その加工品について、地域の活性化につなげることを意図して、「おおち山くじら」としてブランド化し、販売している。

わなで捕獲したイノシシを生きたまま（くくりわなの場合は屠殺後速やかに）処理施設へ運ぶ体制を整えている。また捕獲から肉になるまで個体履歴や製造等を記録するなど国のガイドラインを遵守し、徹底した衛生管理に取り組んでいる。

【販売促進】

販売にあたっては、地域の多くの人々が関わってできているものだという点をアピールしている。肉製品は町内における消費を主としつつ、首都圏や関西圏においても販売されている。

HP等による情報発信は抑えめにし、実際に来てみないと分からないようにしている。青空クラフトの作る皮製品は、原則として現地まで訪れた人にものみ販売を行っている。

アクションのポイント

◎イノシシの駆除や資源化を地域づくりのための「線」として位置付け、利益の追求よりも地域の人々が楽しく活動できるように重きを置き、補助金は用いずに、身の丈に合った活動をするを意識することが、取組の継続につながっている。

◎女性は勉強会で学んだことを家族や近所に話して広め、積極的に実践していく。このことが取組の成功の鍵となっている。

アクションの効果と今後の展開

◎捕獲されたイノシシの約7割を回収、処理し、食肉処理の残さは家畜の飼料原料として資源循環を完結している。

◎鳥獣被害対策の実験圃場から、イノシシの皮の加工等を行っている集会所までが一つの視察コースとなっている。年間平均60件ほど全国から視察を受け入れているが、住民がその対応を通じて、地域の取組に誇りを持つことにつながっている。

美郷町役場

産業振興課

〒 699 - 4692 島根県邑智郡美郷町粕淵168番地

○ TEL / 0855-75-1214 ○ FAX / 0855-75-1218 ○ E-Mail / mstmtf@town.misato.shimane.jp

○ web / <http://www.town.shimane-misato.lg.jp>